



ペレットストーブとは

ペレットストーブは、木質ペレットを燃料にした暖炉型のストーブです。

木質バイオマスエネルギーを利用した、家庭で利用しやすい、エアコンなどに代わる暖房設備として注目されています。

ペレットストーブは暖炉に木をくべて燃やすのと原理は同じですが、暖炉の場合、火をつけたり火力を調節したりするのが大変です。ペレットストーブはその点を使い易いように工夫されており、誰もが安全に使うことができます。（停電の時にはストーブは自動的に作動を停止します。）

燃える炎が燃烧室の窓から見えるようにデザインされ、心を和ませてくれます。また、再生可能なエネルギーの木質ペレットを燃料にしており、FF方式で吹き出る温風はとてもクリーンでお部屋の空気を汚しません。そのため目や鼻、のど、皮膚に対して刺激が少なく、安心して使用することができる、健康的な暖房機です。

飯田市では、このペレットストーブを積極的に設置してきました。

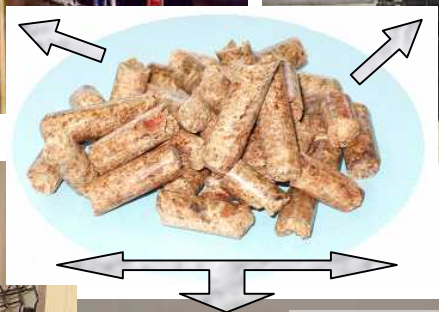
小中学校や保育園を始めとする公共施設で、いろんなタイプのペレットストーブが利用されています。



輻射熱で暖めるタイプ



スウェーデン製



FF式



信州型 公共施設タイプ



FF式 いわて型



ペレットストーブの特徴をまとめてみると

揺れる赤い炎を見せながらお部屋を暖めてくれます。

波長の長い遠赤外線効果で暖かさを持続させます。(遠赤外線で体の芯まで温まる。)

温度管理センサーなどの自動安全装置も付いているので安心。

ペレットストーブは本体の蓄熱効果が高いので、「暖まりにくく、冷めにくい」ところがあります。

火をつけること、温度調節、温かい風を送る送風量などを簡単に設定でき、石油ファンヒーターを使うような手軽さで利用できます。

石油のような刺激が少なく、燃焼の際に出る排気ガスが良好で、正常運転時は煙もほとんど出ません。バイオマスエネルギーである木質ペレットを燃料に使用するため地球環境に大変よいストーブです。

ペレットストーブ Q & A

？ 1 ペレットストーブの値段は？どんなメーカーがあるの？

A 国産のペレットストーブも種類が増えてきていますし、信州型ペレットストーブも販売されています。価格は機種によって違いますが、FF式タイプで工事費を含めて40万円くらいになります。

外国製のものは北米、ヨーロッパ各国で様々なタイプのペレットストーブが生産され、輸入されていますが、機種によっては「ホワイトペレット(樹皮を含めないもの)」専用など、燃料を選ぶものがあります。

？ 2 煙突はいるの？

A FF式の場合、壁に穴を開けて給排気筒設置が必要になります。FF式以外の場合煙突が必要です。着火時、消化時に若干白煙が出る事もありますが、通常運転時には排気はほとんど無色透明です。

？ 3 メンテナンスは？

A 定期的な灰の片付けが必要になりますが、ご自分で掃除が可能です。必要であれば、設置業者等とメンテナンスの契約をして、排気筒内の清掃やストーブ全体の清掃・チェックなどを依頼することもできます。ストーブ設置時には掃除の仕方やメンテナンス方法などをご確認ください。

？ 4 燃料(木質ペレット)の種類は？

A 木質ペレットには、『全木ペレット』、『ホワイトペレット』、『バークペレット』の3種類があります。バークペレットは灰も多くなり、クリンカと呼ばれる灰どうしが固まってしまう現象がおきやすいなど、ストーブの機種によっては使用できるペレットとの相性があります。ストーブに使用できるペレットをご確認ください。

？ 5 灰の処分はどうするの？

A ストーブの種類や燃焼方法・強さ等により異なりますが、1時間使用した場合、約1kgのペレットを使います。そして、ペレットを燃やすと灰が出ます。灰の量は使用するペレットの種類によって異なりますが、燃焼するペレットの1%程度です。1シーズンに1,000kgのペレットを燃焼させたとして、約10kgの灰が生じます。灰は良質な木灰(肥料・土壌改良剤)として花壇や庭の菜園に撒くなどして有効に活用できますが、ゴミとして処分する場合には市町村のルールに従って処理することになります。